

お釈迦様はしつておられました。自分のこの世のいのちの終わりがもうすぐやつてくることを。その証拠に、六〇年間歩きに歩きとおしゃきたからです。この世のいのちの終わりがもうなくなつて、舍利弗や阿難などの古い弟子たちの肩にすがらなければならなくなつたその足が、もう自分でうごかなくなつて、お釈迦様は思ひとおしておられたのです。

もともとほとけの悟りを人にわかつてもらうこととは困難なことです。あれこれ工夫をこらし、方便をもうけて説いてきたけれども、努力をすればするほど、いかにも真実を説き示すといふことは困難このうえないことである。ましてこの世界は五濁の世。

最初ほとけのさとりを開いたときにもその思いはあつた。しかしそのときには、梵天から勧められた。なにあろうとも眞理を説き顕して下さいと。この度もおなじである。

東の世界、南方の世界、三世十方あらゆる世界の諸仏が、「釈迦仏のことばに微塵のうそはない。この称赞不可思議功德一切諸仏所護念經を信じなさい。お説

お釈迦様はしつておられました。自分のこの世のいのちの終わりがもうすぐやつてくることを。その証拠に、六〇年間歩きに歩きとおしゃきたからです。この世のいのちの終わりがもうなくなつて、舍利弗や阿難などの古い弟子たちの肩にすがらなければならなくなつたその足が、もう自分でうごかなくなつて、お釈迦様は思ひとおしておられたのです。

もともとほとけの悟りを人にわかつてもらうこととは困難なことです。あれこれ工夫をこらし、方便をもうけて説いてきたけれども、努力をすればするほど、いかにも真実を説き示すといふことは困難このうえないことである。ましてこの世界は五濁の世。

最初ほとけのさとりを開いたときにもその思いはあつた。しかしそのときには、梵天から勧められた。なにあろうとも眞理を説き顕して下さいと。この度もおなじである。

### 『仏説阿弥陀経』

「さりとて下さる」と声をそろえて勧めお願いして下さる。釈迦はだから最後のちからを振り絞つて、ひたすらにすぐ前にいる舍利弗を見据え、今生のねがいを託するおもいで、さりとて下さる。それがこの『仏説阿弥陀経』でありました。

さりとて下さる。それは如來の弘い願とたゆまぬはたらきによつて仕上げられ莊嚴しうこんされる世界。

まことの「楽しみ」とはなにか。眞実のたのみに生きられる「極楽」といわれる世界は。それは如來の弘い願とたゆまぬはたらきによつて仕上げられ莊嚴しうこんされる世界。

その如來の願とはたらきのなかに生まれかわったならば、そこではもはや誰彼の差別なく、もちろんのすばらしい上善人とともに、如來のいのちのなかに出会うことができるのです。

「わたしは事実このすばらしいのちの再生を知つてゐるがゆえに、この事実をいま説くのである。明日ではなく、どうか今まさにあなたたち、立つてこの極樂往生、如來のいのちにうまれかわることを願うべきである」お釈迦さまの、まさに最後のいのちかけた眞実のご説法が、それがこの『仏説阿弥陀経』であります。

### 旦取後の正信偈

八月八日、勝林寺では例年のように戦没者追悼会法要をつとめさせていただきました。百人を超える戦没者・戦争犠牲者のなかに最も痛ましいのは満州開拓移民団の人々です。しかもその20人はかりの人々のほとんどは年老いた女性と幼い子供たちばかりです。若い男たちはすでに現地召集ということで兵隊にとられ村を離れてしまつています。

その老人と女こどもの移民団の村に、守ってくれるはずの日本軍はたちまちに潰滅。移民の村をおいて我先にと撤退してしまいました。村を守る軍隊はもちろん鉄砲・武器さえほとんど残つてはいなかつたと申します。

逃げるより外ありません。みんなで隊を組みひたすら南へむけて逃げたのですが、なにしろすでに食糧もなく武器もない年より子供です。もうこれまでと覚悟を決めなければなりません。

「お正信偈」が終わってナムアミダブ

下は大きな河。その堤のうえまでたどりついたこの人たちは、ここでたれ言ふともなく、互いに最後のお別れをすることがなつたと申します。みんなで「おしゃうしんげ」(きみようむりょうじゅによらい)をあげます。その「お正信偈」がおわって、唯可信斯高僧説となつて、それからお念佛がはじまつたら、次々に下の河へ降りてゆこう。そしてご和讃を唱えるあいだに川のなかにみずから身を沈めていく。何日も歩きとおしてヘトヘトであるはずのその人たちが、しかし最後の声をふりしほって「お正信偈」を大合唱したのです。

八月八日。わたしたちは、ことしもまた、この平和のなかで、しかしあの満州開拓移民の人達が唱えた同じ「お正信偈」をとなえて、追悼会ついとうえをいたしました。

### 九月のことよみ

|     |                  |
|-----|------------------|
| 一日  | 出石組総代研修会(西宗寺)    |
| 二日  | 坊守六七日(夜)         |
| 三日  | 坊守六七日(夜)         |
| 四日  | 仏社仏婦役員会          |
| 五日  | 衣川忠良氏宅法事         |
| 六日  | 植田正一氏宅法事         |
| 七日  | 坊守忌明法要           |
| 八日  | 教区教化センター設立委員会    |
| 九日  | 小倉傳因寺(本覚寺)       |
| 一〇日 | 石田孝雄氏宅法事         |
| 一一日 | 十六夜会(本覚寺)        |
| 一二日 | 勝林寺(高福寺・善立寺)     |
| 一二日 | 同じ(本覚寺・正福寺・西方寺・長 |
| 二三日 | 寺・西宗寺)           |
| 二四日 | 同じ(乗専寺・専福寺・光顯寺・福 |
| 二五日 | 成寺・本行寺)          |
| 二六日 | 勝林寺(高福寺・善立寺)     |
| 二七日 | 同じ               |
| 二八日 | 勝林寺(高福寺・善立寺)     |

お念佛がはじまると、一人一人次々に堤を降りて川に身を投げたのです。  
「弥陀成仏のこのかたはー」。そのとき小銃の音がしました。子供をおんぶした母親が、子どもの重みで水にうつぶせになれないのをその肉親が鉄砲でうつ死なせてやつたのでした。

「お正信偈」が終わってナムアミダブ

